

# 学園だより

和歌山工業高等専門学校

第111号

令和5年9月



入学式



アメーバ受賞報告



全国高専ピッチオブザイヤー 2022 受賞報告

## 目次

着任しました どうぞよろしくお願いします	校 長 井 上 示 恩	3
夏休みに向けた雑感	教 務 主 事 秋 山 聡	4
何かに取り組む高専生活	学 生 主 事 奥 野 祥 治	5
寮生活をするということ	寮 務 主 事 三 岩 敬 孝	6
KOSEN-KMITL が抱える問題と新しい取組み	電 気 情 報 工 学 科 竹 下 慎 二	7
<b>学生会長のあいさつ</b>		
趣味を持つことの大切さ	知 能 機 械 工 学 科 4 年 加 納 天 汰	9
<b>新入生－本科</b>		
和高専に入学して	知 能 機 械 工 学 科 1 年 岡 本 範 史	10
高専に入学して	電 気 情 報 工 学 科 1 年 鳥 飼 昌 也	10
和歌山高専に入学して	生 物 応 用 化 学 科 1 年 田 上 昌 京	11
高専に入学して	環 境 都 市 工 学 科 1 年 浴 優 大	11
<b>新入生－専攻科</b>		
+2年の専攻科生活	メカトロニクス工学専攻1年生 駒 凌 征	12
専攻科に進学するメリット	エコシステム工学専攻1年生 平 尾 聖 菜	13
<b>新外国人留学生</b>		
自己紹介	知 能 機 械 工 学 科 3 年 ユジン	14
自己紹介	電 気 情 報 工 学 科 3 年 ルクマン バスリ	14
自己紹介	生 物 応 用 化 学 科 3 年 ミチカ	15
自己紹介	環 境 都 市 工 学 科 3 年 ミニア	16
<b>柑紀寮より</b>		17
<b>お知らせ</b>		
令和5年度 学科主任		18
令和5年度 クラス担任		18
令和5年度 学生相談室（ハラスメント相談員）		19
<b>令和5年度行事計画</b>		20

## 着任しました どうぞよろしく申し上げます



校長  
井上 示 恩

この4月に和歌山高専の校長として赴任しました。私は、他校の多くの校長と異なり、教員ではなく行政職の国家公務員として長年奉職してきました。高等専門学校勤務も初めてのこととなります。このため、日々の業務については、教員や事務職員、技術職員の方々に多大な協力をいただきながら遂行しています。

本校に赴任する前は、奨学金事業・留学生支援事業・学生生活支援事業を所管している独立行政法人日本学生支援機構にて勤務をしていました。具体的には、機構が一丸となり「学生のために」を究極のモットーに掲げ、学生生活部長として部員とともに、高等専門学校を含む大学等の教職員の方々を主な対象に、有識者の協力をいただきながら学生生活支援政策の基本となる学生生活調査や、障害学生等に対する支援（調査、各研修会等の実施）、産業界と協力したキャリア教育・就職支援のための取組を実施していました。その際、学識経験者や企業関係者から高専の社会におけるニーズや功績など話を伺っていました。高専は国・地域社会において重要な役割を果たしているということは肌で感じていました。就職状況の良さなどはその典型であろうと思います。この前職での経験も活かしつつ、学生の利益を第一の目標として本校にて教職員一丸となって様々な取り組みを進めていきたいと考えています。

さて、本校において今年度からの取り組みとして、新たなことに積極的に挑戦しようとする起業家精神（アントレプレナーシップ）の涵養を図るためのスタートアップ事業〔アイデア実現工房（Garage738）〕を実施することとしています（738とは御坊市の市外局番から0をとった数字です）。校内で本事業の推進室を設置し教育内容や構想について詳細な検討に着手しました。企業や本校卒業生、高専関係者など

の参画・協力をいただいて学校全体で実施します。本取組は、アントレプレナーシップに係る授業内容を充実させるとともに、課外でも学年や学科の枠を超えて集まり活用できる場としてのアイデア実現工房を校内の大講義室に設置して実施します。学生の自発的・積極的な学びや活動を促し、実り豊かなものになりたいと思います。

昨今、ChatGPTやGoogle Bardなどの高度な生成AIが開発されるなど技術革新には目を見張るものがあります。実生活や業務改善等にさまざまな利点をもたらす一方、著作権侵害等の新たな課題が生じると言われています。最近、文部科学省において対応方針が示され、本校としてもその方針に沿って学生への指導をいたします。今後、様々な分野で生成AIなどの科学技術はさらに進歩し、社会も影響を受け大きく変化していくと思います。

このような状況のもと、先述のスタートアップ事業の全校的な実施によりキャリア教育等を充実させ、そのような激動の最中、自分自身でしっかりと考えて、新たな課題を自分のこととして解決策を考え、社会をリードしていく学生を育成していくことを目指します。一朝一夕に達成できるということはありませんが、将来を見据えて着実に歩みを進めてまいります。学生たちの今後が楽しみです。

ご関係の皆様のご理解、ご協力をよろしく申し上げます。

## 夏休みに向けた雑感



教務主事  
秋山 聡

学生の皆さんは定期試験が終わり、ほっとしていることと思います。

自分の頑張りの結果を見て充実感を感じている人もいるでしょうし、「力不足は知っていたのに、なぜもっとやっておかなかったのか」と悔やむ人や「自分の力を見誤って準備が間に合わなかった」と思う人もいるでしょう。

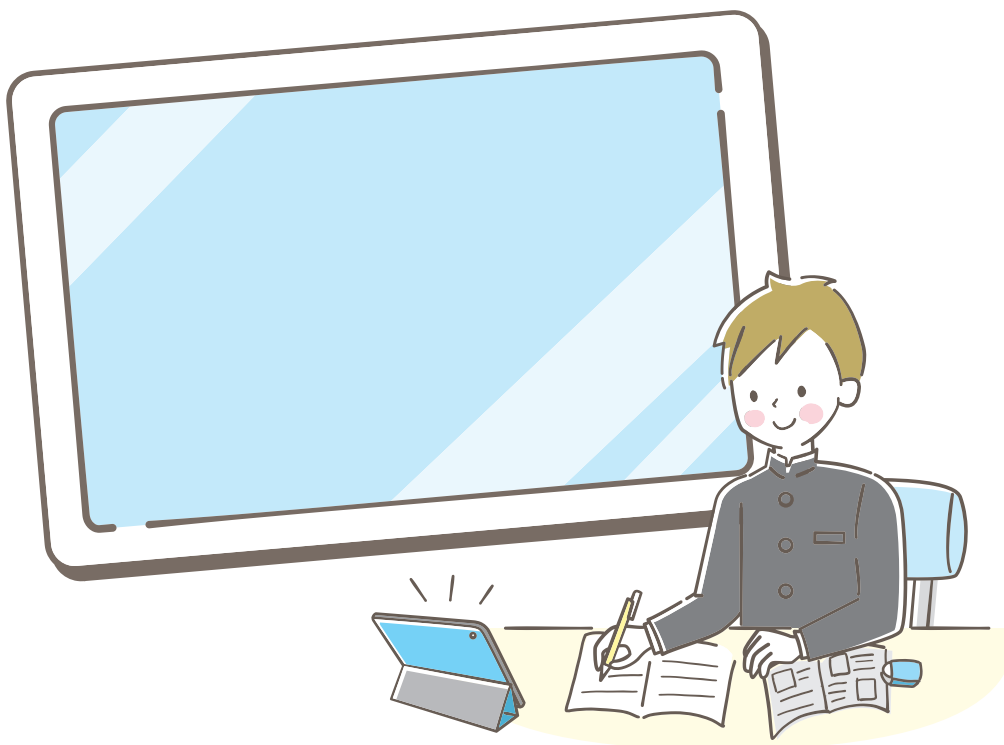
実は私も皆さんの答案に丸付けしながら似た思いにかられます。授業を十分に理解している答案が多ければ授業を振り返って充実感を感じることができ一方、間違いやすい部分で誤答が多かったり、ヤマを張った様な答案が多ければ「もっと注意を繰り返せばよかった」と思います。

「そんなことを言うなら試験を簡単にしてくれれば

良いのに」や「アクティブラーニングでやればよいのに」という声が聞こえてきそうですが、なかなかそういうわけにもゆきません。皆さんが受けている教育は、技術者になるために必要とされる知識・技能の質や量を予想した上で、その習得に投入するリソースが見積もられています。これは本質的には未来予想なので、要・不要の境界線の見極めは安全側に振りたいたところですが、また、アクティブラーニングでは学習者によって学習過程が個別化するので、到達レベルをよりきめ細かく確認することが求められます。上記の事情が無くなるわけではないのです。

とはいえ、成功や失敗によらず過去について捕らわれ続けるのは健康的でも、建設的でもありません。長い進化を経ても人間に過去に捕らわれる機能が残っているのは、それを今後活かす方が生存競争で有利だったからでしょう。ケガをしてもかさぶたができて傷が自然に治って行くのと同じように、成功や失敗の原因究明が終わったら次の行動に自然になげられるように、夏休みを利用してリフレッシュを心がけ、心の調子を整えておきましょう。

(※この原稿は8月4日に作成しました。)



## 何かに取り組む高専生活



学生主事  
**奥野 祥治**

本年4月より学生主事を担当しています生物応用化学科の奥野です。よろしくお願ひいたします。また、本年度からは学生主事が管轄する厚生補導委員会もメンバーが新しくなり、新メンバーで学生の皆さんと協力しながら、和歌山高専の発展に尽力していきます。

さて、新型コロナウイルス感染拡大もようやく落ち着きを見せはじめ、5月8日から第5類となり多くの規制が緩和されました。これまでの数年間、コロナウイルスの影響で、学校生活や学校行事に制約があり、不便さや寂しさを感じたことでしょう。しかし、皆さんの協力と努力のおかげで、学校閉鎖などの大きな問題もなく乗り越えられたことに感謝申し上げます。コロナウイルス感染の規制が緩和されていたことにもなって、今年は、多くの学校行事がコロナ前と同じ形で実施される予定です。すでに、学生総会や体育祭は従来の形で実施しましたが、学園祭も4年ぶりに、本校学生以外の来場者を迎え入れる形で準備を進めています。ただし、この中でも特別な点があります。それは、コロナ前の行事を体験したことがあるのは5年生だけということです。4年生以下の皆さんは、はじめての経験となり準備なども手探りで進めていくことになります。しかし、逆に考えるとこの行事はこういう形でやるものだという変な先入観なしに、これまでとは違った新しい形での学校行事を作っていくチャンスでもあります。5年生の経験を共有してもらいながら、皆さんが最大限楽しめる、新たな形での行事を作っていきます。

一方で、高専の5年間は、みなさんが思っている以上にアツという間に過ぎていきます。そして、次のステップ、つまりキャリアの道へ進む際には成人としての一步を踏み出すことになります。その際、学校での成績だけでなく、これまでの経験や取り組んできたことが非常に重要になります。この5年間でどのよう

に過ごすかは、学生の皆さん一人ひとりの選択にかかっています。高専の5年間にこんなことに取り組んだといえる学生生活を楽しむことが大切です。

高専では専門性の高い勉強に取り組めますが、それだけではありません。勉強の合間に、新しいことに挑戦したり、趣味を追求したりすることも大切です。例えば、和歌山高専には運動系・文科系のクラブが20以上あり、それぞれが独自の魅力を持っています。クラブ活動に参加することは、新しい友人を作り、協力し、リーダーシップスキルを磨く良い機会です。また、クラブだけでなく、自由研究やコンテスト、趣味に打ち込むこともおすすめします。近年、高校生を対象とした工学系の研究発表会や、高専機構が実施している多くのコンテストがあります。高専には博士号をもった教員がおり、大学に負けないレベルの研究施設や装置が配置されています。自分の興味のある分野や取り組んでみたい研究などがあれば、ぜひ近くの教員に相談して下さい。必ず積極的に協力いただけ、取り組みに対して適切なアドバイスがもらえると思います。これらの活動は、あなたの個性を伸ばし、新たな能力を開発する手助けとなると思います。和歌山高専を卒業する際には、「高専生活では、こんな事に取り組みました」と胸を張って話せる充実した高専生活を過ごしてください。

最後に、コロナの制約がなくなったことで、私たちはマスクなしの行動が可能になりました。ただし、これについてはお互いの気持ちを尊重しながら行動してください。お互いの健康と安全が最優先事項であることを忘れてはいけません。高専生活は学びと楽しみの詰まったものであり、一生の思い出を作る絶好の機会です。また、これからのキャリアに向けて準備を整えていくことを忘れずに、いろいろなことに挑戦していつてくれることを期待しています。

## 寮生活をするということ



寮務主事  
**三岩 敬孝**

4月5日、令和5年度の開寮日である。本校の学生寮は全部で8棟、全国で有数の大規模寮を誇っている。開寮当初は4号館の建設および3号館の解体のために2棟の運用ができず、447名の寮生を迎えるにとどまったが、7月には4号館の完成を予定しており、後期授業開始に伴って新たに寮生を迎える予定である。

新型コロナウイルスの全国的な感染拡大により数年前より寮生の皆さんには多くの制限のもとで生活をして頂いた。マスクの着用、手指消毒、換気の徹底、三密の回避など基本的な感染予防対策に加え、寮食堂での食事時間の制限やテーブルの間仕切り、ビュッフェスタイルでの食材の提供の停止、ラーニングコモンズの利用停止など寮ならではの感染症対策にも協力を頂いた。学生の皆さんの協力のお陰で、共同生活をしている本校の寮からのクラスターの発生を抑えることができたことにまずは感謝する。

5月の連休明け、感染症の分類が第2類から第5類への変更されたことより寮内での感染症対策も幾分緩和をしている。また、既に開催したウェルカミングパーティーなど、これまで感染対策として中止や延期とされてきた様々なイベントにおいても本年度は準備を進めているところであり楽しみにして頂きたい。

さて、寮で生活するということはこれまでの感染症対策のように、自宅では行われない制限が通常の生活の場で実施されるということや、個々の行動が周りの友達にどれだけ影響を及ぼすのかを考えて欲しい。例えばそれがいいことであればどんどんプラスの影響を与え、寮全体として誰もが明るく楽しい生活を送ることができるであろう。一緒に試験勉強をして皆でいい点数をとるといった行動はその一つで、通学生からは羨ましがられているようである。

一方でマイナスの影響を及ぼす行動も見逃せま

せん。寮での生活は一緒に生活をしている友達が常にすぐそばに居る。自分の価値観を優先して周りの友達の価値観に配慮しない、または自分の価値観を押し付ける行動は、周りから見れば単なる我儘な者、迷惑な者と判断されてしまう。寮で生活をするということは周りの友達に迷惑をかけない、気遣いのできる人となる必要がある。他にも、寮生活には日課がある。起床時間、食事の時間、入浴の時間、点呼の時間、消灯・就寝の時間など、1日の生活が規則正しく送られることが求められる。「自分のことは自分でやる」だけが寮生活に求められる訳ではない。

このように、寮で生活をするということは自宅で生活することに比べて窮屈な面も多くあるが、窮屈だと思われることをしっかり実行できることで身に付くことも多くある。寮生活をしてきた経験が社会から高い評価を頂いていることも事実であり、それが就職活動や社会に出てからの仕事の役に立っていることも否定できない。

中学校を卒業して親元を離れ、寮生活を始めた学生の皆さん、皆さんはそれぞれ最初不安で一杯だったと思う。嫌なこともあったかもしれない。しかし、本校の寮で生活をした経験は将来きっと役に立つ。私も含め寮のスタッフは皆、あなた達の生活を支えているので、寮生活も学ぶ場として多くの事を学んで頂きたい。



# KOSEN-KMITL が抱える問題と新しい取組み



電気情報工学科  
竹下 慎二

みなさん、こんにちは。新入生の皆さんは初めまして。電気情報工学科の竹下慎二です。昨年4月からタイにありますKOSEN-KMITLに赴任しています。現在タイには首都バンコクにKOSEN-KMITLとKOSEN-KMUTTの2つの高専が開校されていますが、私が勤務しているKOSEN-KMITLはバンコク中心部から車で40分ほどのスワンナプーム国際空港の近くにあり、常に航空機が行き交い、世界を感じられるこの場所でタイ人学生、タイ人教員、全国の高専から選抜された教員と共に日本の高専に追いつき、追い越せの精神で日々過ごしています。

今回はKOSEN-KMITLが抱える課題と新しい試み、そしてバンコクの現状について紹介させていただきます。

KOSEN-KMITLはKMITL(キングモンクット工科大学ラカバン校)の敷地に設立されています。しかし校舎となる建物はコロナ禍で建設が中断になり、建設を再開したと思ったら建設業者が倒産し、入札がやり直しになり、新しい建設業者が建設を再開するという事になっていたのですが、資材の高騰などで建設が再開できていません。現在、KOSEN-KMITLは校舎を間借りして活動していますが、今年度は5年生が卒業する年となりました。卒業までに新校舎のお披露目や教室を利用するといったことが不可能になり、残念な気持ちでいっぱいです。

KOSEN-KMITLは今年度、電気電子工学科が設置され、新たに3学科6クラスの学生を受け入れました。学校の規模が大きくなればなるほど、教室や多目的活動をするスペースが足りなくなってきました。昨年は別の場所に間借りをしてきたため、3回引っ越しをしました。来年度までに何とかできるのか、もし何ともならないなら、また引越

しをする必要があるのか。この点についてはしばらく引きずる問題となりそうです。

この問題が深刻なのは教室の不足だけではありません。実験・実習室がないので据え付けが必要な大型の実験・実習装置の搬入が出来ず、実験実習の実施に支障をきたしてしまいます。教員からすると、最低限これだけはやっておかなければならない、ということが出来ないで教育の質保証という点で大変困難な状況ですが、それを違う分野の能力をより伸ばすなど、別の方法でやりくりすることが、我々日本の高専からの派遣教員に課せられたミッションではないでしょうか。

昨年クラブ活動が開始されたことは昨年の学園だよりでも報告いたしましたが、同好会の活動も開始になりました。5人以上のメンバーと顧問1名がいれば同好会の設立が認められます。しかし日本の高専や高校と違う点は、クラブ活動の時間が放課後ではなく時間割の中に設定されていることです。ですので、全学生が何らかの同好会に所属する必要があり、活動に参加する必要があります。先日、学生を交えた同好会の設立に関する集会で面白い質問がありました(集会で用いられた言語はタイ語で、質問の内容はタイ人の先生に通訳してもらいました)。学生全員が何かしらの同好会に所属する必要があるという説明を聞いて、

「先生、帰宅部を設立しても良いですか？」

タイにも「帰宅部」という概念があるのか!と感心したと同時に、その質問をした学生が5年生だったことにもなぜか納得してしまいました(笑)。

集会の後、なぜか、竹下はeスポーツ同好会の顧問になりました。学生の一団がピンポイントで私のところに向かってきたので狙いをつけていたんだろうとは推測できるのですが、理由が分かりません。今度聞いてみようと思います。

タイはeスポーツの市場規模が東南アジアでインドネシアに次いで2位、世界では第19位の規模となっています。対象としているゲームは既に国内大会、国際大会もあるメジャータイトルで学生さんと一緒にプレイしたいと思うのですが、かなり戦略性を問われるゲームなので覚えることが非

常に多く大変です。やるからには国内大会での入賞を目指して取り組んでもらいたいです。

バンコクの現状で前々から思っていることについてお話ししたいと思います。昨年の6月に外国人の入国規制が解除になり、多くの国から外国人観光客がタイに訪れるようになりました。元々、観光はタイの収入を支えている産業の1つで、約1年をかけてコロナ前の水準に回復しつつあります。それと共に激しくなっているのが交通渋滞です。経済活動は人の動きそのものです。もし、タイや東南アジア諸国への旅行をする機会がありましたら、ぜひその国の交通事情に注目してみてください。日本の交通システムがどれだけ洗練されているかがよく理解できます。

バンコクにおける交通渋滞の理由は様々です。いくつか問題点を挙げてみます。まず、行政側の問題点として、

- 560万人(2021年)という人口に見合った交通インフラの未整備(モノレール、地下鉄などが不足しています。竹下がタイに留学していた約15年前と比較して大分改善していますがそれでも足りません)
  - 車両の流れを考えない道路設計(例えば交通量が激しい道路でUターンが出来てしまいます。大型バスがUターンしている光景を目撃したことがあります。また、複数の道路を多方向から合流させてしまうなど)
  - 土地の用地買収が難しく道路をつなげることが出来ない(そのような場所はお金持ちが代々所有している土地で、政府や都が強く踏み込めません)
  - EVの新車購入に補助金を付けてしまう
  - 信号の切り替えを手動で行っている場合がある
- ドライバー側の問題点として、
- 信号はあまり守らない(渋滞すればするほど守らなくなる傾向があります)
  - 譲り合いの精神に欠けるところがある
  - 自動車は、仮に渋滞しても自分の空間を確保できて涼しいから乗る

といったところです。タイランド4.0というタイの国家成長プロジェクトのターゲット産業の1つとして航空・ロジスティクス(物流)が挙げられています。この産業を強化するためには道路事情を改善する必要がありますのですが、果たしてどこまで改善できるか、バンコクに住んでいる人間としてこれ

からも注目していきます。



写真1 KOSEN-KMITLの建設現場  
新校舎が出来るのはいつの日か…



写真2 キングモンクット工科大学3校の  
教職員対抗戦の一コマ  
バスケットボールの部に出場しました。  
竹下は左側。



# 学生会長あいさつ



## 趣味を持つことの 大切さ

知能機械工学科 4年  
加納 天汰

皆さんこんにちは、学生会長の加納天汰です。新学期が始まり、早くも3ヶ月が経過しました。新入生の皆さんも高専の生活に慣れてきた頃ではないでしょうか。

さて、今回の学園だよりでは、趣味を持つことの大切さについてお話したいと思います。

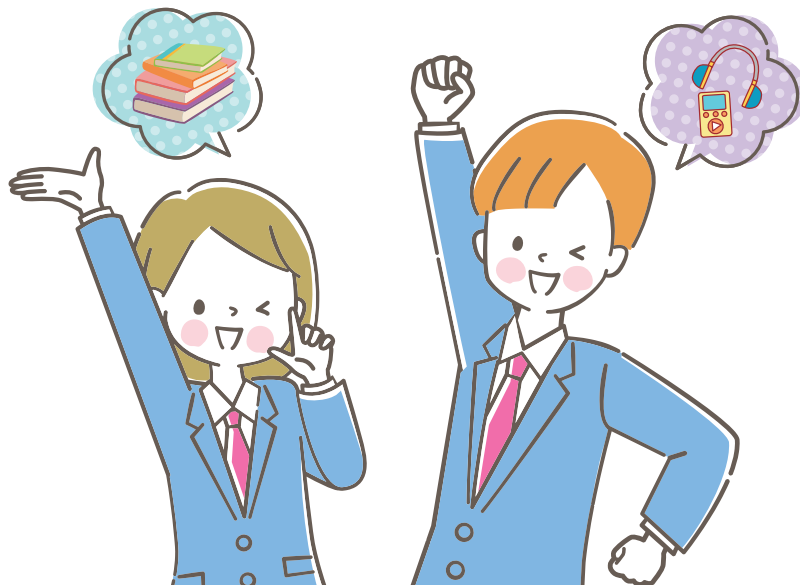
僕の趣味は音楽を聴くことです。音楽は僕にとって、心の豊かさや感動を与えてくれる特別なものです。さまざまなジャンルやアーティストの音楽を聴くことで、新たな世界や感情に触れることができます。音楽は僕たちの心を癒し、励まし、時には勇気を与えてくれる力を持っています。

趣味というのは僕たちの個性を表現し、日常生

活に楽しみをもたらしてくれます。忙しい高専生活の中で、自分自身に時間を与え、自分の心に寄り添う趣味を持つことは、心身の健康やバランスを保つためにも重要です。趣味を通じて、自己成長や創造力の向上、ストレスの解消にもつながると考えます。

また、趣味は新たな出会いや繋がりをもたらしてくれることもあります。僕も音楽鑑賞という趣味を通じて、同じ趣味を持つ人々との交流や共感を得ることができました。

だから、皆さんにもぜひ自分自身の趣味を見つけて楽しんでいただきたいと思います。音楽に限らず、絵画、スポーツ、読書など、様々な趣味があります。今後の高専生活をさらに充実させるために、みなさんも自分の心に響くものを見つけ、日常生活がより豊かになるよう願っています。



## 新入生 — 本科



### 和高専に入学して

知能機械工学科 1年  
岡本 範史

2023年現在、AIやロボットの開発、研究は急速に発展していると言われ、私が高専を志望した理由は、それらの開発、研究に貢献できる人物になりたいと考えたからだ。

そんな私がこの文を執筆しているときに考えているのは、先程のような意識の高そうなことではなく、寝たいということだ。

執筆時、私は提出日の前夜まで原稿を完成させていなかった。睡眠時間を削って執筆している。

テストの時もこのような感じで、私どころか私の友人も夜更かししている人は多い。

こうしてみると私のいる学科全体が心配されそうだが、

が、地頭の良い人や何か一つのことには没頭している人が多く、それがとても刺激になる。

高専に入学して、正解だと思ったのはそういった点や、また15歳から専門的なことが学べるということや、何かと自由であることなどがあげられる。

特に旋盤の授業では、不器用ながらも先生や友人を参考にしながら、品物を作り上げた。その時は完成した達成感はもちろん、技術者としての第一歩を踏めたような気がしてとても気分が高揚した。

私は比較的自由な学生生活で狂い始めた生活習慣を直すことから始めたいと思うが、そういったことも含めて「自由」であり、技術者として必要な勉強だけでなく、「生きる力」を学べる場所にいると思う。

学園だよりがどういった人に読まれているのか分からないが、もし和高専に進学を検討している中学生に読まれているのであれば、是非とも和高専を第一志望校にしてほしいと伝えたい。



### 和高専に入学して

電気情報工学科 1年  
鳥飼 昌也

私が高専を受験しようと考えたのは中学3年生の冬でした。当時の私がなぜ高専を受験しようと考えたかはわかりません。正直言うと今でもわかっていなかったりします。笑

しかし、高専に魅力を感じていなかった訳ではなかったです。普通の高校と違って大学受験を基本的にはしなくていいし、早い時期から専門的なことを学べるなど、高専にしかないすばらしい魅力があることは知っていました。でも、私は当時高専のことを青春ない、男子しかいない、監獄みたいな学校だと思っていました。それは当時見ていた某YouTuberの影響もあると思います。入学してからは、その印象が180度変わりました。

ここからは、高専に入学してからを書いていこうと思います。

まず寮についてです。

入寮してから3ヶ月がたちましたが、とても楽しい生活を送れています。最初こそ寮に不安を抱いていましたが、その不安もすぐに消え、今では毎日が修学旅行

みたいで楽しいです。

つぎは勉強面についてです。

高専の授業は、普通の高校と違って大学の講義に似ているのが特徴です。授業時間も高校と違って長く、教授がいるのも高専ならではのです。外国人の先生も多く、私のクラスの担任もイギリス出身の先生で、なかなかできない体験だと思います。教科にもよりますが、年4回の定期テストがあるのと、小テストも結構あるので普段から勉強することが高専では、特に大事だとこの3ヶ月の間で身をもって感じました。解けない問題や、わからないところがあるときは、先生に聞けば詳しく教えていただけるので、質問したいと思います。

これから先、楽しいことも、辛いことも絶対あると思います。新型コロナウイルスの流行のような自分にはどうにもできないことも、あるかもしれない。しかし、これら乗り越える力もこの学で養うことができると私は思っている。私はこれからも学び続けていこうと思います。

## 新入生 — 本科



### 和歌山高専に入学して

生物応用化学科 1年  
田上昌京

和歌山高専に入学して、一ヶ月が経ちました。入学当初は、人数が少なく小学校からずっと一緒だった友達と離れて大きな学校に来たということもあり、慣れず知らないことばかりだったので不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、なんだかんだ一ヶ月経つと自然に慣れてきました。

今回は、僕が知らなかったことや驚いたことについて書いていきます。

まずは、寮食が想像以上に美味しいということです。僕は寮食を食べる前、寮食は一日三食800円という情報を聞いていたので、(一食だいたい260円)そんなに美味しくないんだなと思っていました。しかし、いざ食べてみると、ほっぺたが落ちるほど美味しいではありませんか。と言わずにはいられないほど美味しかったので思わず感動しました。

次は、ソフトテニス部の先輩がめっちゃ強いということですが。僕は入部前、高専は勉強オタクで運動が苦手な人が

ほとんどなのだと思っていました。しかし、入部してみると、県で成績を残したり、近畿大会に出場したりしている人たちがいて、自分はなんて狭い世界で生きていたんだと実感しました。まさに、井の中の蛙「大会」を知らず、です。僕もこのような先輩たちみたいになりたいと思いました。

高専に入って刺激が多く、慣れないと思う日もありましたが、今ではほとんど慣れて楽しい日々を送っています。これからも、いろいろなことを経験していきたいです。



### 高専に入学して

環境都市工学科 1年  
浴 優 大

小さい頃から、大きな災害によって多くの犠牲者が出るのを目撃し、何とか助けられることが出来ないだろうかと感じる経験をしました。

その結果、環境や防災に非常に興味を持つようになりました。

環境や防災に関する学びの場を探しているうちに、和歌山高専の環境都市工学科を見つけました。そして環境や防災について学ぶため、和歌山高専を受験することに決めました。そして合格通知を受け取り、無事に和歌山高専に入学することができました。

入学当初は寮生活での洗濯や掃除など、自分の身の回りのことが上手くできるか、またクラスに馴染むことができるか、とても不安でした。しかし現在では寮での生活もしっかりと行えているし、クラスでも仲の良い友達を作るこ

とができ、非常に充実した学校生活を送ることができています。

また和歌山高専の授業は進度が速いと聞いていたため、授業についていけるかという心配もありました。しかしこの不安も解消され、授業もしっかりと聞いていけば、ほとんどの内容を理解することができます。クラスの人たちも学力が高く、勉強に対する意欲も高い人が多いため、自分自身も頑張ろうという気持ちにしてくれます。和歌山高専は授業については厳しい部分もありますが、校則はかなり緩いので好きな髪色にできたり、ピアスをするこさえ許されています。そういう部分も含めて、和歌山高専に入学することを選んで良かったと心から感じています。

## 新入生 — 専攻科



### +2年の専攻科生活

メカトロニクス工学専攻 1年  
生 駒 凌 征

専攻科へ入学し、3ヶ月が経過しました。学習内容が本科の頃より奥深くなり、学会発表や新たなクラスメイトとの交流など、こなす事は本科生の頃より増えましたが、刺激的で前向きな毎日を過ごしております。

私が専攻科に入学しようと思った理由は、2年間の本科生活だけだと、高専で経験出来る事をやりきれていない、学べる事を学びきれていないと感じたからです。高専なのになぜ2年の本科生活?と思われるかもしれませんが、私は約2年前に4年次編入制度を活用し、高校から高専4年生へ編入学しました。元々編入学後の進路として大学への3年次編入を希望しており、その目標へ向かい日々勉強を重ねていました。しかし、私が専攻科へ編入するに至った転機が2つあります。1つ目は専攻科の学力試験に合格した事です。専攻科の学力試験にはTOEICの点数が英語の点数となるのですが、お世辞にも高得点とは言えない点数で、受験者も多かったので合格する可能性は低いのではないかと考えました。しかし結果は合格となり、私自身も驚きました。この頃から専攻科との縁があったのかもしれませんが、2つ目はその後の大学の推薦入試が不合格となった事です。前述の通り大学への3年次編入を目指していたのですが、目指していた中でも自分の中で葛藤がありました。それは、「たった2年間で、高専で経験出来る事を全てやりきれるのか、学べる事を学びきれるのか」という葛藤です。編入後に友達もたくさん出来、行事や勉強内容の奥深さも高校時代とは比べ物にならず、本科生の頃は入学から卒業まで毎日が刺激的でした。だからこそ、まだまだ高専で経験出来る事、学べる事がたくさんあるのではと思いました。そうこうして迎えた大学試験当日、私は大きな衝撃を受けました。過去問で対策していた所と全く違う所が出題されたのです。問題文を

観た瞬間、これは落ちたなと思い、心の中で大爆笑しました。想像通り結果は不合格となり、専攻科の試験とは異なり縁の無さを実感しました。別の大学の入試も受けることが出来たのですが、学力試験に合格したという縁や、まだまだ高専で色々な経験をしたいと感じ、私は進路を専攻科へと決定しました。

本科から専攻科へと進学し、私が特に感じた事です。学生と先生、専攻科の先輩との距離が近くなったような気がします。1学年の人数が約1/8となり、先生が観る学生の数が減った事や、卒業研究が特別研究へと変わり、時間割も本科のころから空きが増え、研究室へ行く機会が増えた事が、そう感じる理由だと思います。専攻科修了後の進路の事や研究、プライベートの事でも話す機会が増えたため、自身の知見が深くなっていると感じます。専攻科の授業では、プレゼンの機会が多く設けられていると感じました。専攻科は学会発表に行く機会が多いため、前もって練習としてプレゼンが出来るのはありがたいと感じました。その他、専攻科1年の前期には創造デザインという特別実験があり、メカトロニクス工学専攻とエコシステム工学専攻の学生で3人班を作り、与えられたテーマに沿って実験を行います。異なる出身学科の学生と意見交換をするため、これまで自分が触れてこなかった分野を知ることが出来るので楽しく、自身の知見が広がっていると感じます。

高校から和歌山高専へ編入学した私ですが、専攻科へ進学する事が出来、今も数多くの刺激的な経験や学びを深める事が出来るという事が、他の進学を考えている編入生の方の参考になれば幸いです。この+2年の専攻科生活を無駄に浪費することなく、向上心を持って臨みたいと思っています。

## 専攻科に進学するメリット

エコシステム工学専攻1年 平尾 聖 菜

私が専攻科を目指すようになったきっかけは4年時のインターンでした。当時の私は将来やりたいことがなく、就職にするのか、進学にするのか、どこに就職するのか、進学して何を学びたいのか、さまざまな悩みを抱える日々を過ごしていました。友人が進路を決めている中、私は悩んでいることへの不安もありました。そんな悩みを抱えながらインターンに参加しました。そこで働く方たちはそれぞれ自分の考えを持って、より良い製品になるように試行錯誤を繰り返していました。私はそれを見て自分の未熟さに気づき、まだまだ学びを深める必要があると思いました。本科で得た知識を知識のまま持っているのではなく、知恵として活用したいと思い、専攻科への進学を決めました。

今年の3月に卒業式が行われた体育館で、4月には専攻科生として入学式が行われましたが5年間共に過ごした友人がいないのは少し寂しく、不安な気持ちになりました。しかし、思っていたよりも授業が多く、毎日課題に追われ、そんな気持ちはすぐに吹き飛びました。

専攻科では本科で学んできた生物や化学系以外に4学科を交えた授業や材料系の授業など、今までとは違った分野も学んでいます。提出課題も多く、日頃から勉強する習慣が身に付きます。専攻科に入学して一番本科との違いを感じたことはプレゼンの機会が多く設けられていることです。私は元々人前で発表することが大の苦手な人で、5年生の卒研発表は人生一と言っても過言ではないくらい緊張しました。そんな私ですが、専攻科では前期だけでも5、6回プレゼン発表の機会があり、緊張は今でもしますが少しずつ慣れてきたので、専攻科に進んで良かったと思いました。

授業のひとつに「創造デザイン」があり、これはエコシステム専攻とメカトロニクス専攻の学生が3人ずつのグループをランダムで作り、自分たちで実験テーマを決め、実験を行うものです。異なる学科の意見を取り入れることができるし、これまで話したことがなかった人とも話す機会があるので友好関係の幅が広がりました。

また、本科5年生の時に進んでいた卒業研究を引き続き特別研究として進めています。1年間の卒研では多くの課題を残していたため、この2年間でより深く研究に没頭できると思うと専攻科への入学はかなり良い選択肢だったのではないかと思います。

2年間という長いようで短い専攻科生活ですが、自分を見つめ直す良い機会になるのではないのでしょうか。今、もしこれを読んでいる方が進路に迷っているなら専攻科への進学も視野に入れてみるのはどうでしょうか。きっと良い経験になると思います。



## 新外国人留学生



### 自己紹介

知能機械工学科  
3年  
ユジン

こんにちは皆さん、3年知能機械工学科のユジンです！出身はマレーシアのケダ州です。今年の四月に和歌山工業高等専門学校に入学しました。高専に入る前、一年半ぐらい日本語を勉強しました。日本語でコミュニケーションをとるのはまだまだ上手じゃないけど、幸いにもこの皆さんはとても親切で、話しやすいです。

日本に来てから、いつも日本人や中国人や韓国人に勘違いされます。マレーシアは三大民族があります。それはマレー系、インド系と中華系です。少数派の原住民族もあります。私はマレーシアの中華系です。

日本に対する第一印象は先進国です。でも実際に日本に住んでみると、日本は先端技術を持っている同時に、大自然もちゃんと守っていることに

とても感服しました。道を歩く時、ごみはあまり見かけないし、国民もちゃんとごみ分類をしていて、とても素敵な国です。

和歌山工業高等専門学校に来て、とても良かったと思います。先生とクラスメイトはとても優しいし、いつも助けてくれます。そのおかげで、高専の生活が楽になっています。皆さんに心から感謝しています。

これからも勉強や生活や遊びに頑張ります。皆さんどうぞよろしく願いいたします。



ケダ州

(ジェラパン パディ/お米の家と知られています)



### 自己紹介

電気情報工学科  
3年  
ルクマン バスリ

こんにちは 皆さん、3年電気情報工学科のルクマンバスリです。マレーシアのトレンガヌの出身です。好きな日本食は卵かけご飯です。日本に来てから友達に紹介されて好きになりました。来日したのは3月末です。その時、初めて桜を見ました。

日本に到着したばかりの時は、頭の中にいろいろな考えがありました。例えば、“友達はどうな人なのか”、“食べられる食べ物はあるのか”などです。幸いにも和歌山高専に来て、そんな問題は解決しました。

友達みんな優しくておもしろい人です。なにか困っていることがあったら、助けてくれました。私の日本語があまり上手ではないのに、みんなが理解しようとしてくれました。また、和歌山高専での寮食はハラールの物を用意してくれているので、嬉しいです。私はイスラム教徒だから、豚肉とアルコールは食べてはいけません。とてもありがたいと感じました。

留学は大変なことだと思いましたが、いろいろな手助けをうけて、とても楽になりました。

今は日本にいる間にいろいろなことを学びたくて、留学を楽しんでいます。もちろん、簡単ではないですが絶対に頑張ります。

だから皆さんの手助けが欲しいです。いろいろ教えてください。よろしく願いします。

# 新外国人留学生



## 自己紹介

生物応用化学科  
3年  
ミチカ

皆さんこんにちは。モンゴルから来た留学生のミチカです。中学生の頃から、海外留学を将来の夢として勉強してきた私は、和歌山高専で皆さんと一緒に勉強する機会が与えられて嬉しいです。

モンゴルの首都のウラーンバートルに住んでいました。モンゴルは、ロシア、中国に囲まれ、国土面積は156万6500平方で、日本の約4倍の広さに当たります。全国土の79%を草原が占め、山、森林、オアシス、砂地、平原と多種多様な自然が広がります。人口は日本の約40分の1の327万人で、世界で最も人口密度が低い国です。公用語はモンゴル語で、文字はキリル文字・モンゴル縦文字です。モンゴルには四季があり、冬はマイナス30度、夏は30度になります。



趣味は映画を見ることと、バスケットをすることです。また、自然がいいところへキャンプしたり、見に行ったり、写真を撮るのが好きです。日本に初めて来て、自然が本当にいいところだなと思いました。また、日本の料理が本当においしかったです。



生物応用化学科を選んだ理由として、もともと文系より理系の方に興味があって、生物と化学に興味があったからです。



これから、勉強するだけでなく、色々な人と友達になり、日本の生活や習慣、文化などについても深く学びたいと思っているので、よろしくおねがいします。

# 新外国人留学生



## 自己紹介

環境都市工学科  
3年  
ミア

皆さんこんにちは、カンボジアから来た留学生のミアです。今、3年生で和歌山高専の環境都市工学科で勉強しています。子どもの頃から、日本がとても大好きです。料理や、文化など、観光地も面白くてすごく綺麗だと思っています。日本への留学の理由は日本の先進技術を深く学びたいだけでなく、文化や、伝統など、特に日本人の考え方を勉強したいからです。



私はバットアンバン (Battambang) という町に住んでいます。カンボジアのプノンペンという首都から車で7時間かかります。カンボジアは東南アジアにあります。ラオス、ベトナム、タイと国境を接し、南部は南シナ海に面しています。成田空港からは直行便で7時間かかります。カンボジアの言語はカンボジア語じゃなくてクメール語と言う言葉があります。面積は181,035 km<sup>2</sup>、日本に比べて二分の一です。カンボジアの人口は約1650万人です。宗教については だいたい95%のカンボジア人は仏教徒です。カンボジアには季節が二つしかないです。雨季と乾季です。80%の人が農家です。

カンボジアと言えば、アンコールワットというお寺を思い浮かべますが、アンコールワット

(Angkor Wat) は1992年にUNESCOの世界遺産に選ばれました。そこはカンボジアで一番人気がある観光地です。そういう訳でアンコールワットはカンボジアの象徴になりました。ですから、カンボジアに来たらぜひ来てみてください。



私の趣味はストレスがあれば、音楽を聴くことと、自然な所に旅行したり、写真を撮ったりして、ピクニックすることです。

土木を勉強することにした理由は人々が安全な生活をするために建物、環境保全、防災についての知識に関する問題を解決したいからです。専門を勉強できるばかりではなく、先生とクラスメイトは本当に優しく、常に手伝ってくれます。そのおかげで、高専の生活が楽しくなってきました。心の底から感謝しています。皆さん、どうぞよろしくお願いたします。



## 柑紀寮より

寮務主事補

石橋 春香

平素より柑紀寮へのご理解ご協力をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。4月より新入生(男子101名、女子35名)を迎え、現在男子学生339名、女子学生107名が寮で生活しております。それでは4月以降に行われた主な行事について、報告させていただきます。

### 前期指導寮生任命式

4月7日(金)に2023年度前期指導寮生任命式を実施しました。

任命式では、井上校長より、高学年寮生から選ばれた指導寮生・副指導寮生へ任命書が手渡されました。その後、任命を受けた指導寮生委員長の環境都市工学科5年生 石田力也 君から、「寮生の寮生活がより良いものになるように努力します」との挨拶がありました。

任命式の後に例年行われている研修会の代わりとして、芥河寮務主事補から講話がありました。芥河主事補からは「プライドを持って仕事をこなし、尊敬される指導寮生委員会を作り上げて欲しい」との激励がありました。



### 寮生避難訓練

学生寮では、毎年2回の避難訓練を実施しており、4月13日(木)に今年度1回目の避難訓練を実施しました。

今回の避難訓練は、午後4時20分に震度5強の地震が発生し、その後に津波警報が発令されたという想定で実施されました。寮内緊急放送による避難命令後、全寮生は指導・副指導寮生に誘導されながら、非常用持ち出し袋を持って避難場所とした本校図書館棟前駐車場に避難しました。その後、指導・副指導寮生による点呼が行われ、生全員の安全が確認されました。訓練の最後には、東日本大震災を経験された竹村寮務委員より「実際の災害の場面では周囲が暗い場合が多いため、灯りをすぐに取り出せるよう持ち出し袋の中身を確認してほしい。」との指導を頂きました。



### ウェルカミングパーティー

4月15日(土)に、新入生歓迎イベント「ウェルカミングパーティー2023」を開催しました。

「ウェルカミングパーティー」は新入生との親睦を深める目的で例年4月中旬に上級生の指導寮生が中心になって行っています。本年度はバレーボール大会を企画しました。

バレーボール大会では、指導寮生をチームリーダーとした"1年生と指導寮生の混合チーム"が予選リーグと決勝トーナメントを戦い、最強チームの座を争いました。



# お知らせ

## 令和5年度学科主任

学 科	学科主任
知能機械工学科	津 田 尚 明
電気情報工学科	山 吹 巧 一
生物応用化学科	綱 島 克 彦
環境都市工学科	林 和 幸
総合教育科	桑 原 伸 弘

## 令和5年度クラス担任

学年	学 科	担任教員
1 学年	知能機械工学科	青 山 欽 生 (副：津野)
	電気情報工学科	マーシュ デイビッド (副：青井)
	生物応用化学科	和 田 茂 俊 (副：中出)
	環境都市工学科	池 田 浩 之
2 学年	知能機械工学科	赤 崎 雄 一 (副：椛島)
	電気情報工学科	志 村 幸 紀
	生物応用化学科	川 崎 有里紗
	環境都市工学科	濱 田 俊 彦 (副：西嶋)
3 学年	知能機械工学科	村 山 暢
	電気情報工学科	中 嶋 崇 喜
	生物応用化学科	森 田 誠 一
	環境都市工学科	辻 原 治
4 学年	知能機械工学科	原 圭 介
	電気情報工学科	岡 部 弘 佑
	生物応用化学科	舟 浴 佑 典
	環境都市工学科	山 田 宰
5 学年	知能機械工学科	北 澤 雅 之 (副：大村)
	電気情報工学科	直 井 弘 之
	生物応用化学科	土 井 正 光
	環境都市工学科	横 田 恭 平

## 令和5年度 学生相談員（ハラスメント相談員）

心の中を見つめても、自分が見えてこなかったり、将来を見わたそうとしても、未来が見えなかったり…青春時代は、人生で最も純粋に人間や社会について悩む時代ですが、フーッと一息ついて、誰かに話してみることもあっていいんじゃないでしょうか。

なお、保護者の方々もご利用いただけます。

赤 崎 雄 一	総合教育科教員（室長）
中 出 明 人	総合教育科教員（副室長）
村 山 暢	知能機械工学科教員
森 徹	電気情報工学科教員
河 地 貴 利	生物応用化学科教員
櫻 井 祥 之	環境都市工学科教員
城 台 理 宏	学生課寮務係職員
小 川 敏 子	学生課学生係（看護師）
五 明 優 介	カウンセラー（臨床心理士・公認心理師）
赤 松 正 敏	カウンセラー（ソーシャルスキルトレーナー）
坂 本 優 美	カウンセラー（公認心理師）

☆予約・相談・連絡先

[https://www.wakayama-nct.ac.jp/gakusei/soudan\\_w.html](https://www.wakayama-nct.ac.jp/gakusei/soudan_w.html)



## 令和5年度行事計画 (10月から3月)

### 10月 OCTOBER

- 1 (日) 開寮  
14 (土) 学校説明会

### 11月 NOVEMBER

- 11 (土)～12 (日) 高専祭  
27 (月)～ 後期中間試験

### 12月 DECEMBER

- ～4 (月) 後期中間試験  
5 (火)～7 (木) CBT  
9 (土) 地域産業勉強会  
22 (金) 閉寮

### 1月 JANUARY

- 6 (土) 学校長推薦入試 (登校禁止)  
8 (月) 開寮  
20 (土) 体験実習入試 (登校禁止)  
23 (火) 学生総会・寮生総会  
27 (土)～28 (日) 英語プレコン全国大会

### 2月 FEBRUARY

- 7 (水)～13 (火) 学年末試験  
11 (日) 学力検査入試  
帰国生徒特別選抜入試  
(登校禁止)  
22 (木) 終業式・閉寮  
追試・再試日  
25 (日) 学力検査入試・追試験  
(登校禁止)  
26 (月)～27 (火) 追試・再試日

### 3月 MARCH

- 6 (水) 成績・卒業判定会  
16 (土) 卒業式・修了式



編集：和歌山工業高等専門学校広報委員会  
発行：和歌山工業高等専門学校  
和歌山県御坊市名田町野島 77 番地  
電話 0738-29-8244 (学生課学生係)

